



「学校の歴史とともに新たな旅立ち」

3月24日に行われた昭栄小学校(高田孔平校長)卒業式での1コマです。3月末をもって96年の歴史に幕を閉じた同校にとって最後の卒業式。地域の方が見守る中、唯一にして最後の卒業生が思い出と歴史を胸に学びやを巣立ちました。

(関連記事20~21ページ)

むかしむか史 (294)

てしかがが歴史写真館 168



和琴半島のエゾヤマザクラ

今年の冬は例年になく暴風雪に見舞われ、皆さんもお疲れのことと思います。4月に入り、やっと日ごとに暖かさが感じられるようになり、春の訪れが待ち遠しいこのごろです。忘れてはならない3.11東日本大震災から、丸4年を迎えました。復興の歩みはまだまだですが、被災された人々にも少しずつ明るい兆しが見えてきたころでもあります。そのような中で、日本人の心の希望のともしびとして、春の季節を迎えるにふさわしい木といえば、やはり桜でしょうか。

弟子屈の地では桜の季節までまだ時間がありますが、5月の中旬には今年の風雪に耐えてエゾヤマザクラが花を咲かせるでしょう。本州の桜と違い花と葉が同時に開くので、近くから見ると派手さはないのですが、山に孤高に立つ姿とかれんな花が心に響き、ささやかな感じが好きです。

今回ご紹介したいのは和琴半島の先端近く、カヌーなどの乗り物でしか行けない場所にたたずむエゾヤマザクラです。

写真は一昨年春の和琴半島のエゾヤマザクラです。皆さんも記憶があると思いますが、一昨年は5月の連休も嵐になるなど大変寒い日が続き、本当に桜が咲くのか心配になるほどでした。まだ咲いているかなと思い、6月1日にカヌーで桜を見に行ったところ、いつもの場所で、姉妹のように仲良く2本でたたずむエゾヤマザクラが、風雪に耐えながら満開の桜を咲かせていました。

冬の季節に耐えた半年、緑のない季節を過ごした北国の人の心にも、希望や出発の意味を超えた思いのある桜です。

天候によっては行くことができない場合もありますが、知人にカヌー愛好者の方がいる場合は、ぜひカヌーでお花見しようと誘ってください。日本人でよかったと思える時間を過ごせます。

また、皆さんも3.11の大震災を忘れず、桜の花を愛でながら祈っていただければ幸いです。

てしかがが郷土研究会(平塚)

Public relations magazine

2015.4

No.728

てしかがが

主な内容

- 記録的な暴風雪……………②
- 平成27年度町政執行方針……………④
- 平成27年度教育行政方針……………⑧
- そうだ公民館へ行こう……………⑫
- 働くあなたを応援します……………⑮
- 町税などの納期限/夜間納税窓口開設……………⑲

てしかがが 2015.4

毎月1回発行 発行/弟子屈町 編集/まちづくり政策課 ☎482-2913 ☎482-2696
〒088-3292 弟子屈町中央2丁目3番1号 URL <http://www.town.teshikaga.hokkaido.jp/>

R100 この広報紙には再生紙を使っています